

特別賞 「憶層の学び舎」-“私”の記憶より再編した駅前塾の世代空間の構築-



憶層の学び舎

— “私”の記憶より再編した駅前塾の世代空間の構築 —

1. 設計主旨 - 実体験より考える駅前空間 -

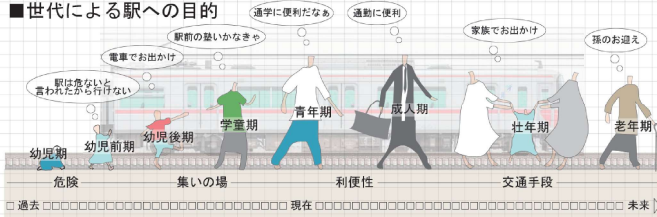
1-1. “私”の駅前空間

□ X氏（設計提案者） - 3歳の頃の特徴 - □ X氏（設計提案者） - 現在の特徴 -

<ul style="list-style-type: none"> ○身長：930mm ○好きなこと：電車遊び、外での運動 ○親からの印象「大人しかったけど好きなことは熱中してよく遊んでいました。」 ○駅前の思い出 	<ul style="list-style-type: none"> ○身長：1,700mm ○好きなこと：旅行、運動 ○親からの印象「忙しそうにしているけどなんだかんだ楽しそうにしています。」 ○駅前の思い出
--	---

私は駅前で多くの事を学んだ。幼少期は音や列車に触れ、駅前の熱い今でも通学で利用している。

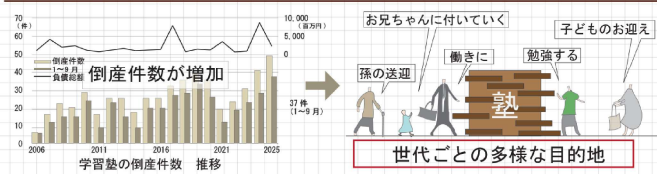
1-2. 実体験からひも解く新しい駅前空間



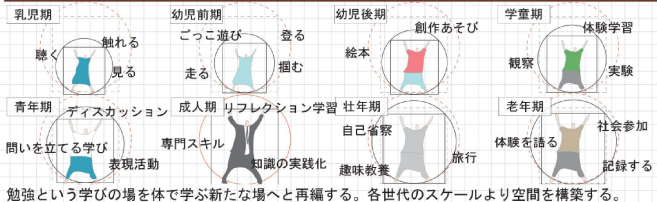
私は人生の中で多くのことに触れた駅はかけがえのない空間だと感じる。多世代がそれぞれの目的で利用しているが、私の利用する駅は単なる”目的利用”に留まってしまっている。「それぞれの世代が目的を通して関わりあう」そんな空間が必要なのではないだろうか。

3. 提案 - 駅前塾の再編による世代空間の構築 -

3-1. “塾”という空間から生まれる世代ごとの使われ方



3-2. 身体スケールからひも解く木の空間



勉強という学びの場を体で学ぶ新たな場へと再編する。各世代のスケールより空間を構築する。

2. 計画敷地 - 春日井市神領駅 -

2-1. 敷地概要 - 神領駅の特徴と変化 -

- 敷地：愛知県春日井市神領町向拝571
- 対象駅：神領駅
- 特徴
 - ・車両基地があり他の駅より路線が多い
 - ・北口と南口に高低差がある
 - ・名古屋駅まで約26分でアクセス可能
 - ・ファミリー層が多い傾向
 - ・2008年に橋上駅舎化された

2003年生まれの私は物心ついたタイミングで橋上駅舎化された。車両基地のイベントなどもあり家族層が多く多世代の交流がなされていた。一方で線路による分断でその雰囲気は消失しつつある。

2-2. “私”にとっての駅周辺とは



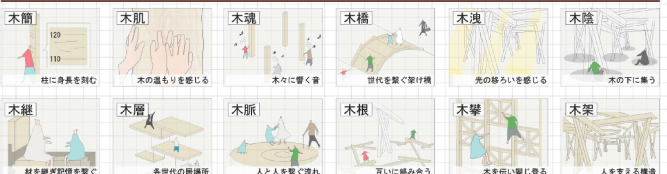
子供が遊ぶ様子 電車で家族が旅行する様子
駅は小さなころは危険な場所と教えられていたが家族と旅行へ行くための楽しい場所だった。

2-3. 発生する課題



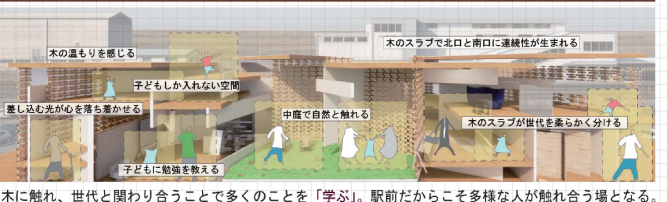
4. 世代空間を繋ぐ木の役割

4-1. 世代をつなぎ思い出させる12の木



日本語には木という字がつく様々な言葉がある。日本語を学ぶように木を「体」で「自然と学ぶため」に12の言葉から木空間を構築し、各世代でさまざまな体験を提案する。

4-2. 駅周辺だからこそその木



木に触れ、世代と関わり合うことで多くのことを「学ぶ」。駅前だからこそ多様な人が触れ合う場となる。

